

Eureka VII

六年制通信 No.15 令和2年9月4日(金)号

Think Globally, Act Locally

これは「着眼大局着手小局」の英語バージョンです。「着眼大局着手小局」は将棋の升田幸三がよく色紙に書いていまして、私はそれで知りました。

何をするにしても、先ず全体像の把握が大切です。それが着眼大局。「木を見て森を見ず」という言葉は知っているでしょう。同じことです。少し遠くから全体を眺めることの大切さは、古来さまざまな言葉で伝えられています。虹も近づけばただの水滴、これもそうです。水滴をいくら眺めても美しい虹は見えません。虹を見たことのない人が虹の水滴の研究をして、それで自分は虹の何たるかを知ったとは言えないでしょう。それは滑稽なことです。まず虹を見ること、まず森を見ること、それが大切なのです。全体像が分らないと頂上の見えない登山をするようなもので、歩くペースすら決めることができず不安に押しつぶされ、自分が何をしているのかさえ分からなくなります。全体像を知らないで行動すると、結局道に迷うだけです。しかし山の全体像が分かれば、どうやって登るか、どのくらいの装備が必要か、どのくらいの時間がかかるか、それら全てがわかります。つまり計画が立てられるのですね。

そして、どのような計画を立てるにせよ、自分のすることは一歩ずつ登ることだけだということも理解しなくてはなりません。何かいきなり大きなことをするわけではないのです。実際の行動は小さいことから始まるのです。これが着手小局。それに、小さい積み重ねだけが大きな成果を生み出すことも、よく言われていますね。着手は小さいことから始まることを、そして、小さいがゆえにすぐには成果が出ないことを私たちはもっとよく理解しておく必要があります。100キロのバーベルを上げたいと考えた人がいきなり100キロをセットしてはいけません。そういう人は、「できること」と「やりたいこと」の区別ができていないのです。まず着手は20キロでいいのです。ただし、途中でやめない。これが肝心。

君たちの大学受験についても、全体像の把握は必要です。早いほどいい。早ければ早いほど心が安定しますから。例えば、数学では多くの分野を習いますが、高校卒業の直前に全ての授業が終わっても受験はできませんよね。それぞれの分野が自分にとってどの程度の難易度なのかを知り、「難」は時間をかけて克服しなくてはならないし「易」は忘れない程度の復習でいいかもしれない。早く全体像を知れば、そのゆとりが生まれます。言い換えると、全体像（登山で言えば頂上）が分かって初めて受験の準備が始まるわけです。でも、実際には一歩一歩勉強するだけです。着手はあくまでも小さな一歩です。受験勉強は頂上の見えた登山に似ていますね。

それでは、その小さな一歩を続け高い山に登るための時間管理（予定表）について三点ほど言うておきましょう。

まず初めに、期限を決めることです。いつまでにどの程度登るかを明確に決めることです。私たちの生活にはたいてい「いついつまでに」という締め切りがあります。今はどうか知りませんが、昔は大学を卒業するには卒業論文の審査がありました。提出期限は何月何日の何時までと記されているのですが、一秒たりとも延長はされませんでした。私は数秒差で受け取りを拒否された学生を見えています。彼は就職も決まっていたのですが、それで留年となりました。

この、時間単位で終わりを決めるのが肝要です。よく「明日までに提出してください」とか「期限は今週いっぱいです」と言うでしょう。あれはよくないのです。人によって最終ラインが何時なのか、その解釈が変わるような表現は禁物です。

次に途中経過を確認することです。必ず振り返って、このままでいいのか検証することが大切です。最終期限が分かっているのですから、このペースでいいのかどうか何度か軌道修正のできるタイミングで見直すことが必要です。そのタイミングをあらかじめ決めておくこと。何月何日は「振り返りの日」というように。

最後に、実はこれが一番大切で、しかも案外見落とされてしまいがちなのですが、スタート日を決めることです。私たちは「いつまでに」は気にするのですが、「いつから」をはっきり決めないことがあります。これはいけない。なぜか。始めた途端に新しい問題に遭遇することがよくあるからです。ですから、最初の一歩をなるべく早く踏み出すことが大切で、その日をはっきり決めておく必要があるのです。

今週のおすすめ

- ・ 今野 敏 『任侠書房』他 （中公文庫）

もともと『とせい』として出版。その後シリーズ化のため『任侠書房』と改題。続いて『任侠学園』、『任侠病院』、『任侠浴場』、『任侠シネマ』と現在まで 5 冊。

この春に今野さんの『隠蔽捜査』を読んで、このシリーズ（現在全 10 冊かな。図書館に入れたよ）を楽しんだのですが、これが今野さんを面白いと思ったきっかけ。それで、今度は任侠シリーズを読むことに。主人公がヤクザなので君たちに紹介していいものかと迷ったのですが、何はともあれ面白いんだから仕方ない。言うておくけど、フィクションですからね。現実こんな昔ながらの任侠団体があるはずはないので、念のため。東京は下町の小さな一家。親分がやたらと顔が広い。その親分のところに書店、学校、病院などの経営危機の相談が持ち込まれる。親分は喜んで手を貸すと約束するのだが、子分たちは予想もしないトラブルに巻き込まれ…。ま、こんな話なのですが、とにかく面白い。ちなみに『任侠学園』は映画化されていて、私も借りて観ましたが、原作を 10 とすると 3 くらいの出来でした。残念。

学校や病院や浴場の立て直しに、まず何から始めたか。この部分だけでも君たちには参考にしてほしい。それはね、徹底した清掃です。私は大いに納得しましたよ。

BGM は kiroro の 未来へ でした…。